

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070300690		
法人名	特定非営利活動法人 団		
事業所名	認知症高齢者グループホーム 梨ノ木荘		
所在地	上田市大屋梨ノ木239-3		
自己評価作成日	平成 22年 2月 6日	評価結果市町村受理日	平成 22年 6月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・地域に根ざし、地域の理解を得るよう努力している。                  ・利用者様が楽しみ健康でいられるよう、食材・献立・調理方法に工夫した食事の提供に心掛けている。</p>
---

事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070300690&amp;SCD=320">http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070300690&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	飯田市上郷別府3307-5
訪問調査日	平成22年3月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>国道18号線としなの鉄道とに挟まれた地域にあるこのグループホームは、2階建て民家風の元歯科医院を改修した普通の家である。車椅子に乗ったり、手押し車を押したり、杖を突いたりしながら、近所や通りがかりの地域の方に挨拶し、防火水槽の縁に腰を下ろして休み、近くの駅を見て1日の散歩が終わる、といった普段の生活がある。この地域で、こうしたつながりを大切にしているグループホームの姿勢が、地域の方々の協力や支援の輪を広げている。                  また、利用者は職員と一緒に散歩したり、居間でおしゃべりしたりすることを楽しみにしているようで、穏やかで温もりのある人間関係が築かれている。これは、職員の笑顔と優しい声かけに見られるように、代表者・運営者が職員と一体となってケアに取り組んでいるからだ考える。</p>
---

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名( 梨ノ木荘 )		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。	
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

## 自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア会議、スタッフ会議等で理念を確かめ合い実践している。	「やさしいまなざし、手のぬくもり、心のやすらぎ、地域・家族との支えあい」の4つの理念を掲げ、職員とともに実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当荘の行事に民生委員の方や住民に参加して頂いたり、地域で行われるふれ合い広場に参加させて頂いたり、また、近隣の高齢者に食事を届けたり、密接に交流している。	自治会に加入し、地域の行事に参加したり、グループホームの行事に地域の方々に来ていただいたりして交流を続けている。また、普段の散歩の中で、地域の方々に挨拶や声かけをして、交流を深めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会を得ようと前向きに考えているが、まだ実践には至っていない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、行政よりの指導や、地域の方や家族と意見交換をし、サービス向上に活かしている。	2年前から2か月に1回、運営推進会議を継続開催している。家族代表・民生委員・ボランティア・市の担当者・包括センターの方々に参加していただき、きめ細かな活動報告をし、いろいろな課題を話し合っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも必ず参加して頂いている他、連絡を密に取り協力して頂いている。	市の担当者や日頃から連絡を取り、運営推進会議について、ベンチ設置についてなどの問題を伝え、話し合っている。また、介護相談員にも訪問していただき、協力関係を作っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。	身体拘束についての研修を進めたり、無断で外出する場合には、後について行って支援したりするなどし、鍵をかけない、身体拘束しないケアを行っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学びあう機会はまだ一歩だが、倫理として職員一同意識して努めている。		

グループホーム 梨の木荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターと連携をとっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	充分説明を行い、不安の無いよう対処している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族の要望を常に聴き連絡ノート等に記入し、職員皆で想いを共有し運営につなげている。	利用者や家族からの要望などは連絡ノートを使って職員間で日々確認しあっている、家族会では、皆で話し合い、運営に反映できるようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議、スタッフ会議等の開催。職員意見を出し合い、運営に反映させている。	代表者・運営者と職員との間に、話しやすい関係を築いているので、気楽に相談したり、会議などで検討したりすることができる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受けさせ、力量を上げていけるよう努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス連絡協議会、長野県NPOセンター、全国宅老所・グループホーム連絡会の研修や会議に参加しサービスの質の向上に努めている。		

グループホーム 梨の木荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分に本人のお話を聞き、安心して頂けるよう応え、良好な関係を築けるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様本人を交えたり、又、時に応じて席を外して頂いたりしながらご家族の本意の聴き取りに努め、より深い関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	難しい事と感じているが、関係性の構築には心掛けている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会、運営推進会議に出席していただき、共に支え合える関係を築いていく努力をしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や地元の知り合い、友人等の訪問、面会を歓迎している。	お盆やお正月には自宅で過ごしたり、兄弟や地域の友人などの訪問を積極的に受け入れたりしている。また、外出の折には、馴染みの食堂で弁当を作ってもらうなどして、関係作りを大切にしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	充分心掛けている。レクリエーション等を通して協力・助け合うよう声掛けしている。		

グループホーム 梨の木荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、退居後の居場所に出向いて本人や家族とお話ししたり相談にのったりし関係を大切に保っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々声掛けし、本人の希望や意向を聴く努力をしている。	利用者一人ひとりについて、日々の生活の中から思いや意向をとらえ、連絡ノートなどに記入し、申し送りできるようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、また、時に応じて状況の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり日々の状況を職員間で申し送りをし、情報を共有し現状の把握をしっかりしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向の聞き取り、職員よりの意見により計画作成。しかしながら、特にモニタリングの点においても一歩努力が必要。	サービス計画書・日課計画票・ケアプラン実行表など丁寧な記録がされ、ケア会議において利用者一人ひとりにあった介護計画を作成してきている。	いろいろな記録の内容を検討して、効果的なモニタリングをしていくことが望まれる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録をきちんととっている。又、連絡ノートを活用し、職員間で情報を共有、計画にも反映している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズに答え、足浴やマッサージを導入したりしている。これからも生まれるニーズに応じて支援していくよう話し合っている。		

グループホーム 梨の木荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩をしたり、散歩中に近隣の方とかかわったり、商店への買い物に行ったり、又、地域の行事に参加したり等、地域に馴染む生活の支援をしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各医療機関と連携をとっている。利用者さんの定期受診の通院介助を行っている。又、お体の状態の変化に応じ、適切に受診支援している。	専門医療機関との協力体制をとって、利用者の適切な受診を行っている。訪問歯科医や訪問マッサージ師など、利用者の個別支援の機会も作っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しており、職員一同指示をうけ、適切な支援をしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との関係作りは常に行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と時に応じて話し合っている。	入居時に利用者・家族の意向確認をしている。そして、利用者の状況変化を受けて個別に話し合いを行い、必要に応じて専門機関への橋渡しを含めた支援を行うようにしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を受けている。連絡網の整備が出来ている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施している。地域へも協力依頼している。救急警報装置の備付も完了している。	消防署の助言を受けて、年2回防災訓練を行っている。また、地域の方の協力を得て情報を早く受け取るように、緊急連絡網を整備している。	2階建ての元歯科医院改修の建物で、施設・設備上の難しい問題があるが、さらにできる範囲での災害対策検討を期待したい。

グループホーム 梨の木荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を護ることを重要課題として考えている。	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応を重視し、職員に周知を図っている。また、職員は利用者との関係作りを大切にした言葉かけや対応に配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員からも声掛けし、希望を聞いたりしつつ生活の介助がなされている。利用者様本位の生活がなされるよう働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞きなるべくそって支援出来るよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選びを職員と一緒にしたり、美容院への通いの介助をしたり、その方らしい身だしなみ支援をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	常にではないが、出来る部分に手を貸して頂き、食事作りしてもらったり片付けを一緒にしたりしている。	いろいろな食材を工夫した食事で、量や嗜好なども配慮しながら大皿から一人ひとりに盛り付け、職員と一緒に楽しく食べることができていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養十分に摂れる食事を提供している。特に水分摂取については気を遣っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後きちんとした口腔ケアをしている。		

グループホーム 梨の木荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり排泄の記録を取り、リズムを知り促し声掛け等している。リハビリパンツ使用の方も日中は布パンツに履き替えて頂く等工夫している。	利用者一人ひとりの支援プランに沿って、チェックし検討している。そして、可能な限り自立支援を目指して、オムツから下着への移行を時間帯を含め、配慮されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を把握、記録記入、又、水分摂取に気遣いし予防している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日の定めはあるが、楽しんで入浴できるよう職員一同心掛け、介助にあたっている。	入浴日が設定されているが、午睡後の利用者の体調や状況に応じ、入浴順など柔軟に対応し、支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠出来るよう支援している。身体の状態に応じ、休息をとって頂いたり、個々に対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院介助時の医師よりの説明や、届けてくださる家族からのお話を熟知し配薬している。症状変化については特に神経を遣っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	頼りにされる喜びや張り合いを大切にしたり、ドライブや買い物の同行など個々に対応して支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得ての外出・外泊支援、地域ボランティアの協力もあり。又、行事を盛り込んで外出したりする。花見、ドライブ、温泉旅行など。	天候や行事によってできないときもあるが、近くの散歩を一緒に行っている。車椅子に乗ったり、手押し車を押したり、杖をついたりして、また、それぞれの状況に合わせ、休んだり、少し遠くまで行ったりしていた。	

グループホーム 梨の木荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお小遣いは預かっている。利用者様は、外出時・通院他、職員に支払を委ねている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状の作成・送り支援。電話等ご家族からあった場合は、つないで話して頂いたりしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と一緒に季節に応じた飾り付けをしている。カーテン・床・壁など目に優しい光を感じられるよう工夫している。	狭いながらも居間兼食堂や畳の間などに利用者の作品や季節の飾りが飾られ、皆が一緒に過ごすことのできる空間作りがされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、時々椅子の位置を変えたりして関係性の構築を図っている。居室では利用者様同士自由に生活できるよう支援している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持ち込んでいただいている。又、ご家族の写真を飾ったりし、安心して過ごせる居室となっている。	広さや造りはそれぞれ違っていても、利用者一人ひとりの居室は、本人や家族の意向を採り入れ、工夫されていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりなど建物内に配置。安全に一人で移動可能、他工夫もしている。職員も安全面に特に気配りしている。		